

木協通信

第44号
発行年月日
平成28年3月1日
日田市南友田100-1
日田木材協同組合
総務企画委員会発行
TEL24-2167

☆日田木材協同組合百年を語る

また、二月には帝国憲法が發布され、同年四月には市町村制が施行され、従来の北豆田村、豆田町、南豆田村が合併して豆田町に、庄手村、隈町、竹田村が合併して隈町となり、三本松に日田郡会議堂が建設された。

また明治二十八年七月十五日は船持営業者によって船方組合が結成されている。

その組合規約の第一条には

日田郡船舶営業上の弊害を矯正し、治川法を改良し、荷主の便を計り、信用を挽回せん事を期し、茲に組合を設け決定する条項左の如し」とし

第二条では組合の名称は日田郡船方組合と称すべし、

第四条としては当組合は日田郡を以て地区とす、とあり、

さらに

規約五条では 組合事務所は日田郡隈町に設置し同郡五和村字川下に出張所を設置するものとす。但し当分は日田郡木竹商組合事務所に於いて事務取扱いをなす」とある。

船方組合はもちろん、船舶によって物資を輸送するための船持達の組合であり、船舶運賃及び船頭の賃金の決定を行うほか、物品の搭載量を定めるなどを行っていた。

☆ 真庭バイオマスツアー」を視察

顔の見える家づくり推進協議会

次号へ続く

1月29日(金)30日(土)の一泊二日で、木質バイオマス利用の先進地、岡山県真庭市に行ってきました。

視察の目的は、日田市が昨年策定した森林・林業・木材産業振興ビジョンの中で産業観光プログラム「日田もりツアー」を推進する事としており、先進地である真庭市のバイオマスツアーを参考にしようと、顔の見える家づくり推進協議会事務局として参加してまいりました。



今回のツアーは1日目ツアー立ち上げ経緯の講義を受け、2日目は①CLTを使用した建築現場視察、②バイオマスボイラー導入の庁舎視察、③真庭バイオマス発電(株)を視察し昼食をとって終了という内容でした。このバイオマスツアーを

盟です。視察を受ける事業所も、視察をする方も、いちいち相手と打ち合わせるのは大変です。その労をとり、他の観光資源・食事・宿泊などの手配もしてくれ、案内もしてくれるのが、この真庭観光連盟です。観光連盟には、13人の従業員がおり、雇用も生みだしています。

真庭市は岡山県北部にある、9町村が合併した大きな市で、日田市の約1.25倍の面積があります。日田は日田林業というブランドがあるように、真庭市も美作(みまさか)・ヒノキブランドがあり、林業地帯を抱え、製材業も盛んな所です。製材所の数は30社で20万m³を消費し、原木市場は3市場あり年間取扱量は12万m³です。しかし、この真庭市も山間地域のご多分にれず、過疎高齢化が進行する地域でもあります。

真庭市勝山町に、銘建工業という大手の集成材メーカーがあります。真庭市がタイアップして、地域全体としてエネルギーの地産地消を進めて来しました。製材所、集成材工場から出る、端材、木屑、カンナくず、木の皮を有効利用して、本来ならば、ただ燃やすか、金を払って産廃業者に引き取ってもらうしかなかった物を、熱と電気に変えて、経済価値を生み出す取り組みです。そして、山元にも目を向け、利用伐採でも放置される末木や、曲がり等で利用されない材木、細くて建築利用しにくい材木なども出材して、燃料にする事を実行しています。

また、端材、未利用材をチップにし、カンナくずや製材木くずなどを、粉碎・圧縮して作るペレットを、市役所の冷暖房に使ったりしています。国際価格に左右される石油に代わる燃料として、地域に根づかせていく取り組みも、真庭市が先頭に立って進めているそうです。

今回CLTを使用している建築現場もツアーに盛り込まれていました。市長自らCLTの説明・挨拶を行い木材の利用普及に積極的なと感じる事が出来ました。市内でCLTを使用した建築物は今回3棟目で、初めて使用する施工業者の話では、現場での工期短縮はできるが、今回の構造は木造軸組みに



【CLT建築現場】

CLTを床・壁・屋根等で使用するので、柱欠きをどのようにするか課題であるとの話でした。また、CLT1枚の自重がかなりあるので、クレーンでの吊り上げの際に苦労をしたとも話していました。

その後、市内10団体が株主となって作られた、真庭バイオマス発電(株)の視察を行いました。今回の真庭バイオマスツアーに参加し、日田と似ている所が各所にあったと思いました。真似できる事は積極的に取り入れ、川上から川下まで一連の流れを一つの地域で見学・体験できるツアーを開催する事で都市圏住民への情報発信を行い木材製品の需要拡大に繋がればと思います。

宮崎桂一



【バイオマス発電所】 視察参加者

☆フオローアップセミナー

i 東京

当組合では今年度、中大規模の木造施設が設計出来る建築士の養成を行うため、林野庁の助成を受け、セミナーを開催して参りました。木造建築普及促進セミナーを補完するため、フオローアップセミナーを開催しています。最終回となる今回は、東京に向いて平成28年2月10日から1泊2日の研修を受けてきました。

研修生等一行20名は、最初に林野庁を訪れ、木材産業課 木材製品技術室 住宅資材班の服部課長補佐から講義を受けました。服部補佐は以前、林野庁から大山町役場に出向されていた方で、日田の事情には精通していました。講義はパワーポイントを



林野庁にて

東京大学にて
裏面へつづく

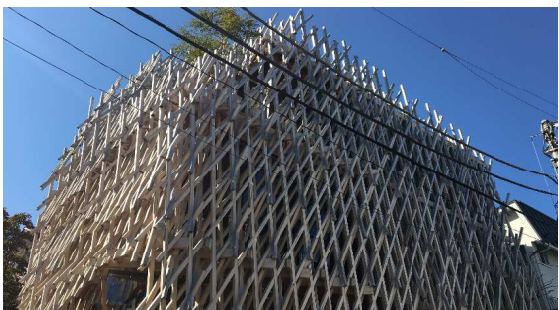
↓ 表面より

利用して分かりやすく説明していただきました。戦争の経験を踏まえ、戦後の建築物の復旧には、燃えにくい材料を普及させるため、木材は使用しない政策が取られてきたこと、現在は、その逆の木材を沢山使い、地球温暖化の防止や農山村の活性化を図る政策に転換していることがよく理解できました。政府は林業・木材は成長産業化が期待出来るとシナリオを描いており、公共建築物や観光交流施設での木造化の推進、木材製品の輸出などにも力を入れていることが分かりました。2020年の東京オリンピック、パラリンピックのメイン会場である新国立競技場は木材が沢山使用されるそうであり、これを機会に木材がさらに見直されることを期待しています。

林野庁の研修を終え、地下鉄を利用して東京大学に行きました。明治や昭和初期の重厚な建物には歴史を感じます。キャンパスを視察後、安藤先生が関わって造られた木造施設の弥生講堂アネックスセイホクギャラリーで、パワーポイントを使って、安藤先生からいろんな木造施設を紹介していただきました。また、弥生講堂一条ホールの見学を終え、キャンパス内にある木材をふんだんに使った施設で懇談会が開催されました。その後、安藤先生の部屋で木材の話の伺いました。

2日目は最初に東京おもちゃ美術館を訪れました。木材を使ったいろんなおもちゃや遊具があり、沢山の親子が木と触れ合っていました。次に新国立競技場を設計した隈研吾さんの作品がある南青山のサンヒルズにある建物を見学しました。とてもユニークな造りとなっており、人目を引く建物でした。その後、みなと芝浦館の木質化を見学して帰路に着きました。また、全国木材組合連合会も訪問でき大変有意義な2日間の研修が出来ました。

新原富士子



【東京おもちゃ美術館】

【隈研吾さん作品】

★東京五輪関連施設での

日田材使用に向けた勉強会開催

2020年の東京オリンピック・パラリンピックのメイン会場が木をふんだんに使用した日本らしい施設に決まったことを受けて、これらの関連施設に日田材を売り込もうと平成28年2月16日に市役所で第1回

目の勉強が開催されました。

五輪の木材はこれまで認証材が使用されていることから、東京五輪も認証材が使われることとなります。認証材とは、森林経営の持続性や環境へ配慮した一定の基準に基づき第三者機関が認定した森林から産出される木材をいいます。また、流通段階では、産出された木材がその他の木材と混入しないように、分別、表示管理をしなければなりません。認証には国際的なものと日本独自の認証制度がありますが、国際認証との相互認証に向けた手続きが進行中です。日田市ではトライ・ウッドと日田市森林組合が管理する森林が認証を受けています。また、流通段階での認証は日田市森林組合と2つの工場が認証を受けています。

認定を受けた木材が、高く取引をされるといのですが、今はまだ差別化は進んでおりません。しかし、今後は認証材の取引が国際的なスタンダードになることも考えられるので、チャンス逃さないよう日田木材協同組合としても、流通の認証取得を検討しなければならぬと思っています。

★製品共販出張報告

中国地区」

事業部長 高瀬浩佳

○日時 平成28年2月16日～18日

山陰、山陽共に一服感が出ていた。とは云うものの忙しい事業所は相変わらず忙しいようで、お邪魔したプレカット工場は大小どこも加工済み製品が並んでいた。むしろ、製品市場や問屋のみの事業所に閉塞感を感じたのは、勘違いであろうか。何れにしても、どの担当者も今年は春先から秋口まで若しくは今年一杯はそこそこ忙しいであろうとの見方をしているようであった。

ただ、今回、岡山の木材業者など過去に取引の無いプレカット工場の担当者が前向きな対応を見せたことが、今後の市況を暗示しているのか？とも考えてしまう。

何れにしても、この地区に以前の様に基地的な事業所を早急に作らないと配送の課題が解決出来ない。

又、今回先方との会話の中で頻繁に語られる「中国木材」と今後の原木供給に関するキーワードが、これまでの「均一商品」を大量に早く安く供給できる産地」と云う九州材のイメージから変化しているのを感じられた。各地で頻繁に行われている県



産材使用に対する補助事業がそれに拍車を掛けているのも事実であろう。

★日田杉玩具プレゼントに

お礼が届きました

去る12月の九州の森林・林業・木材産業交流会にて日田市内の子ども園等に日田杉玩具をプレゼントしました。

その子ども園より、お礼のカードやメッセージを沢山頂きました。

木協事務所の玄関に展示していますので、ご覧ください。



☆お知らせ

○移転に係るご意見等を

お寄せください

2月26日に、木協敷地の有効利用に係る説明会を開催致しました。組合員皆様のご意見、ご質問を承っております。今後も協議してまいりますので、ご意見等をお待ちしています。

○日田木協ポータルサイト開設

この度、日田木材協同組合のホームページをリニューアルし、組合員の紹介ページを設けています。情報の提供をお願いいたします。

まだまだ改善していきますので、ご連絡よろしくお願い申し上げます。

URL

http://www.hitasugi.jp/

メールアドレス

hitamokyo@wind.ocn.ne.jp



リニューアルしたホームページ】